

「続・わかりやすいパターン認識」正誤表（第1刷）

頁	箇所	修正前	修正後
15	式 (1.37) とその 6 行下	0.704	0.70
17	最初の行	もたないとする（三つの扉を公平に扱う）.	もたず（三つの扉を公平に扱う）, このことはゲストも知っている .
33	最後の行	表 (H) が出た以外は全て裏 (T) であったことを示している .	裏 (T) が出た以外は全て表 (H) であったことを示している .
45	図 3.3	$n = 10$	$n = 100$
47	演習問題の直前	観測回数 n の増大とともに, ベイズ誤り確率が減少する様子が図 3.4 に示されている .	観測回数 n の増大とともに, ベイズ誤り確率が減少する様子が図 3.4 に示されている . 観測を行う前, すなわち $n = 0$ の時点では, コインは事前確率が最大の ω_3 と判定される . このときのベイズ誤り確率は $e_B = 1 - \pi_3 = 0.5$ であり, このことが図 3.4 でも確かめられる .
48	図 3.4		
59	下から 8 行目	Be(15, 15)	Be(16, 16)
114	図 6.1	X, U, V	X, U, V
117	図 6.2	$J(\theta') = G(\theta^0, \phi')$	$J(\theta^0) = G(\theta^0, \phi')$ その他、図中のスカラー表記 θ, ϕ を、すべてベクトル表記 θ, ϕ に修正
137	図 8.1	$\alpha_t(i)$	$\alpha_t(j)$
316	文献 [RJ93]	NTTアドバンステクノロジー株式会社(1967)	NTTアドバンステクノロジー株式会社(1995)

その他の修正

- 大文字の X を小文字の x に修正 (図 2.1 , 5.1 , 8.4 , 8.5 , 9.8).
- スカラー表記の x をベクトル表記の \mathbf{x} に修正 (図 2.3 , 3.1 , 3.2 , 3.3 , 4.1 , 4.3 , 4.4 , 4.5 , 4.6 , 5.2 , A.1).
- スカラー表記の θ をベクトル表記の $\boldsymbol{\theta}$ に修正(図 11.9 ,11.10 ,11.11 ,11.12 ,11.13 , A.7).
- 事前確率 π_i の値に比例するよう, 輪郭線の太さを修正 (図 9.4 , 9.5 , 9.7 , 10.2 , 10.6 , 10.8 , 12.2).